富山県子育て支援・少子化対策県民会議 第２回基本計画策定部会

１　日　　時　　令和元年８月８日（木）15 時～17 時
２　場　　所　　富山県民会館　611 号室
３　議　　題
　（１）基礎調査の速報について
　（２）中間報告（案）について
４　委員発言　　以下のとおり

〇Ａ委員
・女性の人口を少なくしているのは、女子高校生の進学する大学が県内にないからである。東京に行ってしまい、素敵な出会いがあれば結婚ということにもなり、より戻ってくる可能性が低くなる。小中高までの地元に対する郷土愛、小さい子とのふれあいなどの教育が大事。ライフプラン教育や、同学年同士の横のつながりも大事だが、異学年との縦のつながりが大事。小さな子とのふれあいなどの縦の活動があればいいと思う。自分の子どもが通っている英会話教室では、幼児から大学生が一緒に同じ活動をすることとなっており、下の子の面倒を自然に見るようになり、リーダーシップをとる練習にもなっている。その結果、自立心も芽生え結婚も早い。同じ教室の出身者で結婚した人もいる。小さなころから、色んな年齢の子どもと関わるのはよい効果があると思う。放課後児童クラブではそういったことが期待できる。
・ベビーシッター、家事代行サービスなどの民間サービスの充実の話が出たが、子育てサポーターなどのマンパワーが足りないのではないか。サービスを利用したくてもできない心配もあるため、人材の充実を考えていくべきである。
・第１子を産みやすいような環境を整備してほしい。

〇Ｂ委員
・妊活をして出産された方が多い。初産年齢が 30 代の中で、なかなかお子さんを授からない方が多い。育児や出産で退社される方は少ないが、妊活で辞める方が多くなってきている。治療していてもなかなか授からない、授からないのはストレスが原因ではないか、ならば仕事を辞めた方がいいのではないかというのが離職の原因。働きながら妊活できる支援がこれからは求められている。
・女性が希望する時期に妊娠・出産できるように、ライフプランを考えることが大事なのかなと考えている。社員教育に取り入れるとか、学生時代に自分のライフプランを考えることができると初産年齢が早くなるのではないか。
・無意識の偏見、無意識の思い込みが問題だと感じている。長時間労働が良しとされた時代の上司のもとでは、長時間労働をする社員が評価される。育児中の女性には大事な仕事は任せられないといった偏見や、無意識の思い込みというのが、女性が働くことや男性の育児休業の取得にも弊害があると考えている。県が実施している「煌めく女性リーダー塾」でこういった研修をやっていただいているのが参考になっている。

・出会いの場はあるか、結婚はできるのかという質問が男女ともに多々ある。企業として結婚支援を考えることが、企業にとってもＰＲになると考えている。

〇Ｃ委員

・ＵＩＪターンの促進も大事だが、地元に残る選択をした若者たちへの支援が必要ではないか。
・福井県は子育てを終えた先輩が、今度は子育てを支援する側に回り、継続して子育てに携わっている。
・福井県では、幼児教育センターの質の高い保育を提供する取組みが全国的にみても先行している。

〇Ｄ委員

・早く１人目を元気なうちに産みましょうということを若い人に啓発すべき。子どもを持つのに適した年齢がある。若いときには体力がある。
・男性に家事育児にもっと携わってほしい。大変な時期に夫婦で一緒に育児にしっかり携わらないと、男性は寂しい老後になる。そのとき一緒にがんばった男性に素敵な老後が待っている。男性の育児休暇を、１週間でも２週間でも短期でもいいから取ってほしい。どんなに育児が大変であるかということを理解し、男性も家事育児を主体的にやっていかないと、２人目３人目が続かない。
・県立大学看護学部の開設は、今後明るい兆しになると思う。

〇Ｅ委員

・国の働き方改革関連で、今年 4 月から例えば有給休暇の 5 日間の取得が義務化されたが、中小企業では、一生懸命働くことが良いことだという職人気質な考え方もあり、なかなか有給の取得が伸びなかったが、強制的に取らなければいけなくなり、働き方の考え方が変わってきた。こういった義務化などは、実効性があり、いいと思う。
・元気のよい会社と元気がない会社があり、元気のない会社は結婚していない人が多かった。ヒアリングすると、経済的に不安だから結婚できないという返答が多かったので、給料をあげて、ボーナスを 2.5 倍にしたら、活動の場が広がり、明るく元気になった。そういった企業が元気になるような支援をしてほしい。

〇Ｆ委員

・未婚化が少子化の原因。
・結婚し子どもを持ち、仕事を続ける人にとっては、家庭と仕事の両立がしやすくなっていると思う。よい社会になってきていると感じる。
・女性が帰ってこないのは、男性がこれまで家事・育児をやらなかったつけが回ってきている。娘に「帰ってこなくてもいいわよ。好きなところで、好きなことをしなさい」と言う母親が多いと聞いている。
・適当な相手が見つからないという理由に、出会いの機会の創出の支援が必要ということについては、自分の伴侶ぐらい自分で見つけてこいと思う。ほしいものがあっ

たら何でもこちらが用意するという社会になると少し問題があるように思われる。行政がそこまでやらなきゃいけないのかなと思う。
・ライフプランをどの段階で教えるのかが重要になってくる。まずは家庭で教える必要があると思う。結婚、子育てに対するネガティブなイメージの払拭が大事。「結婚したら、子どもを持ったらこんないいことがあった、うちの両親も結婚して子育てが楽しそうだった」と思えて、社会全体がそう思えるように、行政ばかりでなく、我々一人ひとりが取り組んでいかなきゃいけないと思う。
・県の施策は、十分だと思う。

〇Ｇ委員
・男性の家事・育児参画が進めば、第２子・３子が生まれやすいという調査結果をみて、そのとおりだと思う。自分も夫が家事・育児に協力的だったから、3 人目を産めた。ぜひ男性の家事・育児参画を進めてほしい。
・幼児教育の無償化に伴い、子どもを長時間預ける親が増えるのではないかという話を聞いて、保育士が更に忙しくなり、保育士の晩婚化につながるのではないかと心配している。

〇Ｈ委員
・子育てを一緒にしない男性は勿体ない。男性の育児休業取得に賛成。男性が具体的に育児にかかわる仕組みをつくっていくことが大事。
・男性の保育士も 14 歳の挑戦や、赤ちゃんとのふれあい事業が楽しかったという男子が保育士になっている。体験が大事。
・女性が首都圏から帰ってこないという話だが、帰ってきてくれる女性保育士は、卒園児であったり、14 歳の挑戦に来た女性であったりする。やはり、県内での思い出や経験が帰ってくるきっかけとなり大事な要因だと思う。
・幼児教育センターはありがたい取組み。今日、質の高い教育・保育が求められており、幼児教育・保育が無償化になるなかで保育所、幼稚園が質の高い教育・保育を行うことが大事。
・先日の車内で乳児が置き去りにされ亡くなった事件があったが、家庭と子育て支援機関との連携が重要と感じた。

〇Ｉ委員
・幼児教育・保育の無償化が 10 月からスタートする。保護者の経済的負担が軽くなり、預けやすい環境となり、安易に長時間預ける親が増えるのではないかと懸念している。そうなると、保育士の数が足りるのか、保育士の質を担保できるのか、施設そのものの質が保たれるのか、そういったことが懸念される。

〇Ｊ委員
・家族全員で子どもを一緒に育てるという意識に変えていくことが大事。若い男性の大学生を見ていると、簡単に意識は変わるが、年代の違う方の意識を変えるのは難しい。家庭が小規模化していくなかで、男性も家事・育児などの役割を担っていく

ことが一番大事だと思う。
・家庭だけで機能していた時代もあったが、今は、家庭のほか、学校教育も大事になっている。家庭の役割を考える時間や機会がないまま、社会に出て、家庭を持ってパニックになる人が多い。
・親を見て子育てのよい体験や学校や地域等での小さな子どもとのふれあい、また立山登山など、富山を出る前に富山でのよい体験をたくさんすることが帰ってくるきっかけにもつながり、効果的なのかなと思う。
・福井県との違いでは、知事が以前、富山の男性は感謝の気持ちを言わないことだとおっしゃっていたことを思い出した。

〇Ｋ委員
・保護者について、10 年前に比べて、第 2 子、第 3 子をお持ちの方が増えてきたなというのが実感。母親に話を聞くと、間を空けず産まないと、サポートが途切れるかもしれないことが不安と言われる。自宅の近くもしくは職場の近くの保育園に預けるときに、兄弟がいる場合、同じ保育園に預けることができないことへの不安や、親が元気なうちに出産しないと子育てに協力してもらえないのではといった不安の声を聞く。
・多子の方が、子どもたちが協力し合って育っていくので、親としてかえって楽になると聞く。
・採用人数が少なかった時代に独身が多い。自分の夢をかなえるために、勉強して、時期を逃してしまったという感じ。職場のなかで、職場結婚が激減している。同僚結婚も激減している。昔は、世話焼きのお母さまがおられて紹介してくださったが、そんな方がおられなくなった。
・ふるさと教育などに力を入れているが、Ｕターンが減っている現状はショック。小中高の過程のどこの時点での教育が最も効果的なのかを考える必要がある。
・最近の子どもたちは、失敗に対する耐性が弱くなっている。失恋に対する恐れがあるように思われる。人としてのたくましさを育てていくことが学校に求められていると感じている。

〇Ｌ委員
・赤ちゃんふれあい体験はほとんどの高校でやっているが、非常に大事だと思う。昔のように親戚が集まって、下の子どもの面倒を見る機会も減っている。こういった小さな子どもと触れ合う機会が大事。
・ライフプラン教育について、高校生はしっかりとやっているが、富山県での子育てがどれだけ環境に恵まれているかを生徒がどこまで理解しているかは疑問。
・教員は忙しくてタイミングを逃して未婚という方が多い。だが、子どもたちを自分の子どものように接していて、寂しくないのではとも思う。
・生徒は好きな人がいても、告白してつきあうところまで行くのにものすごく時間がかかる。誰から見ても相思相愛で間違いないという段階までいかないと動こうとしない。やはり傷つくのが怖いのだと思う。

〇M委員

・郷土愛の育成、ライフプラン教育の必要性について、エビデンスを踏まえた教育が必要であると思う。誤解を生む可能性もあるため。

・出会いの機会の創出などの結婚支援については、未婚化が進行しているのは、多くを占めていた見合い結婚から恋愛結婚に変わったから。団塊の世代から、恋愛結婚が増えてきたと言われており、団塊の世代では半分は見合い結婚だが、現在では1割にも満たない。自分だけでアプローチし結婚する文化が日本には育っていない。そのため、ある程度出会いの場を作ったりするなどの結婚支援は必要と考える。

・保育の無償化による影響については、無償化の対象となる 3～5 歳は既に保育所か幼稚園に入っており、0～2 歳児については、国の無償化は、低所得世帯に限定され、既にほぼ無償化されている。この現状を考えると、今回の無償化による保育の需要については、影響は少ないと考えているが、長時間保育が増える可能性はある。

・女子学生がいける大学が少ないというご意見があったが、富山県の大学の収容人数は 18 歳人口が 1 万人あるのに対して、1/4 と少ない状況にある。富山県の石井知事は、国に働きかけをされ、「東京 23 区の大学の定員増を原則認めない」という有識者会議の最終報告がなされたと聞いている。今後は地方の大学定員の増を他の地域と連携されて働きかけられてはいかがかと思う。